

議会だより

No.33 contents

- 町議会の動き…………… 2～3 P
- 常任委員会の活動…………… 3～5 P
- 一般質問…………… 6～7 P
- 特別委員会の活動…………… 8 P

元いっしょいっしょげ!
土庄町



豊島
お大師まいり

薬師堂 鐘楼



越水大師（唐櫃岡）



綾部大師堂・やすみ場大師堂（家浦岡）



南大師堂（唐櫃岡）



薬師堂（甲生）

町議会の動き

こんなことが決まりました

6月定例会は、6月25日から27日までの3日間の会期で開かれ、専決処分承認4件、平成20年度補正予算1件、条例関係4件、人事案件1件、財産処分1件、工事請負契約の締結2件、議員提案2件について審議し、原案どおり可決しました。

専決処分

●平成20年度一般会計補正予算
2百22万7千円追加

●平成20年度埋立事業特別会計補正予算
1百35万6千円追加

●土庄町税条例の一部を改正する条例

●土庄町手数料徴収条例の一部を改正する条例

補正予算

●平成20年度一般会計補正予算

条例の制定・改正

5千5百72万4千円減額し、総額73億8千50万3千円になりました。

●土庄町監査委員条例の一部を改正する条例

●土庄町税条例の一部を改正する条例

●土庄町国民健康保険税条例の一部を改正する条例

●土庄町豊かなふるさとづくり基金の設置、管理及び処分に関する条例

財産の処分

●王子前埋立分譲地の一区画を1千3百47万円で売却することになりました。

議会の議決を経て契約を締結します。

工事請負契約の締結

●馬越港港整備交付金事業防波堤建設工事

・請負代金
7千2百97万5千円

・工事請負人
三宅建設株式会社

(本事業計画は、平成18年から平成22年の5年間の予定です。)



馬越港

●唐櫃漁港地域水産物供給基盤整備事業(1工区) A防波堤建設工事

・請負代金
7千35万円

・工事請負人
株式会社田中海事

(本事業計画は、平成13年から約10年間の予定です。)



唐櫃漁港

人事案件

●土庄町教育委員会委員の任命の同意(現委員の辞職に伴うもの)

土庄町見目
河野 宏宜 氏

議員提案

次の2件の意見書を採択し、関係大臣等に提出しました。

島嶼部の航路支援を求める意見書(要約)

島嶼部航路は、島の住民にとって、欠くことのできない交通手段であり、住民生活を支える基盤であるとともに、島の産業や観光振興に大きな役割を果たしており、正に生命線そのものである。

そのような中、昨今の燃油高騰に対応して、国において緊急対策が講じられたところであるが、国庫補助航路以外の航路については、引き続き大変厳しい状況にある。

島嶼部航路事業は、航路事業者の懸命な経営努力にもかかわらず、燃油の高騰や過疎化に伴う利用者の減少などによって航路存続の危機に直面している。

よって、国におかれては、次の事項の実現について、特段の措置を講じられるよう強く要望する。



土庄～高松航路

1 島嶼部航路の公共性に鑑み、島嶼部住民の日常生活に必要不可欠な全ての島嶼部航路が国庫補助対象となるよう基準を見直すこと。

2 補助対象航路への国庫補助割合の安定的助成維持と併せ、国庫補助の拡充が行われるよう制度の充実や改善を図ること。

3 燃油の安定的確保に資するための燃油購入費に係る国庫補助制度を創設すること。

常任委員会の活動

総務建設委員会

総務課

小学校廃校跡地利用の現在の状況について説明がありました。

その後の進展では、戸形地区で芸術・文化・体験型の集客施設を計画し、自治会との合意により、アート・ビオトープ小豆島としてNPO法人を立ち上げるべく3月13日付けで香川県へ申請されたようです。

認可が下りれば、初めて町側との施設についての貸借契約という運びになるとのことです。今のところ、大きな進展はないということでした。

委員より、チラシが新聞折り込みで入ったことについては、町が許可したのかどうか。町が許可したような文面になって

いるが、どうしてなのかといった質問がありました。

た。執行部からは、町長との話の中で、町として是非、活用して下さいとお願いしており、条件として、地元3自治会の同意をもらって下さいとお願いし、連合会として同意をいただいているとのことでした。

それと、株式会社には貸せないということ、NPO法人の手続きをしているとのことでした。

チラシの発行場所が、旧戸形小学校内になっていた件については、学校用地の海側から体育館のあたりが一部個人名の残地があり、その土地を二期リゾート代表者が購入したので、発行場所として書かれたとのことでした。まだ貸借関係は発生しておりませんので、チラシを配付する前に一度ご相談いただければ一番よかったのかなと思います。

企画課

す。いずれにしても、何か進展があれば委員会へご報告で相談申し上げたいとのことでした。

3月27日に商工観光課、議会事務局、企画課で佐賀県へコールセンターの視察に行きました。

概要についてですが、建設場所は、JR佐賀駅から歩いて10分程度の市内中心部です。敷地面積約3,500㎡、建物延べ床面積5,300㎡、鉄骨造3階建の施設で



佐賀県コールセンター

す。土地は所有者である佐賀市の協力をいただき、無償で土地使用貸借契約

を結び県が借り受けております。

建物については、リース会社と15年間の建物賃貸借契約（契約期間終了後、県所有）を締結しております。現在、この建物は損保ジャパンが入っており、席数は340席でシフト制の勤務により320人程度が働いています。

平均年齢は32〜33歳で、内男性は5%程度だということでした。

また、この建物関係で年間約2千万円の一般財源が必要であり、これは1・2階部分には空き室や、共用部分などもあるため、ペイできるのは満室になっても18年位かかるそうです。

委員より、苦情処理業務は大変だと思うので、クレームの少ない業種の会社等が進出できるように考えて、進めてほしいとの意見がございました。



国による公的森林整備の推進と国有林野事業の健全化を求める意見書（要約）

林業を取り巻く厳しい状況の中で、森林経営は脆弱化し、その担い手である山村は崩壊の危機に立っている。

今後の林政の展開にあたっては、安全で安心できる国民の暮らしを守るために、重要な役割を果たす水源林等公益森林の整備、更には、地域林業・木材産業の振興を通じて山村の活性化に十分寄与できるよう、次の施策展開について強く要望する。



財産区有林

の拡充、更には、木材のバイオマス利用の促進等により間伐材を含む地域材の需要拡大対策の推進による地域林業・木材産業の振興を図ること。

1 森林吸収源対策を着実に推進するため、環境税等税制上の措置を含め安定的な財源を確保するとともに、林業・木材関連産業の振興施策の推進と、森林所有者の費用負担軽減措置による森林経営意欲を創出する施策を講じること。

2 緑の雇用対策等、森林・林業の担い手対策
3 水源林造成事業を計画的に推進するための組織体制の確保を図ること。
4 国民共有の財産である国有林を適正に管理するとともに、国による管理運営体制の堅持及びその管理運営を通じて地域における森林・林業担い手の育成と地域活性化を図る施策を講じること。

建設課

土庄港周辺の整備計画における、平成19年度から事業着手した、県と町が施工する高潮対策事業についての説明がありました。

高潮対策としての胸壁は、第3バース背後、町営駐車場前から島バス観光センター前までを本年度計画しており、出入口については、関係者と協議しながらゲートを取り付けていきたいと県から聞いているそうです。

町から要望している、観光センターから高速艇乗場までのラインは、風が西から北西にかけて吹くと、この部分はともに波が打ちあがり、他の部分は約80cmであるのに対し、ここは1・7mの高上げが必要と聞かれています。

しかし、現在の通路の横に1・7mの壁を施行すれば海が見えず、眺望ができません。町としては、高潮対策と環境整備を兼ねて、前面の埋立を

要望していますが、県としては、この計画では高潮対策事業として難しいということ、現在、県と協議中とのことでした。

また、吉ヶ浦自治会館の横、前川船具店からの埋立地への進入路の横の高上げの計画を聞いています。

平成19年度に調査し、平成20年度より工事に着手した本年度事業費は、昨年度繰越額も含めて約1億円と聞いているとのことでした。

続きまして、平成16年度より着手している耐震岸壁は、今年度海上工事が第1バース前面に鋼管杭を打ち込み、その上に大部港に保管しているジャケットを載せ、9月末までに完成させ、陸上部分については、11月末を目途に完成予定とのことでした。

以前より、この周辺の整備が要望されていた中、高速艇対策として現在の国道436号の一部を廃止し、町道吉ヶ浦4号線

を延長してバスターミナル、タクシー、マイクロバス、送迎車の駐車場を計画しており、また、フェリー対策として国道436号から県道本町小瀬土庄港線までを県が土庄港臨港道路として計画し、その臨港道路から第1バースまでの町道西土庄港線を町が整備していく計画ということでした。

これから県の関係部局、四国整備局等関係機関と協議する問題点が多々あり、県と町との施行範囲の接点の位置決みや国道の一部廃止などで、事業費も変わってくるだろうとの説明で、平成21年度に事業化できるよう準備をしているとのことでした。



土庄港港務所周辺

委員より、高速艇までの防潮壁をコンクリートの打ち放しでなく、絵などを描いて環境整備をしたらどうか、道路のつけ方をもっと協議したらどうかなどの意見がありました。

水道課

昨年12月19日午後1時に設置しました土庄町渇水対策本部を、今年3月31日午前9時をもって解散いたしました。

2月上旬に山田ダムが満水になり、北部水系の貯水量は回復しましたが、新中山池を空にしていたため殿川水系と豊島地区の貯水量が回復しなかったため、解散を見送っていました。

その後、3月下旬のまとまった雨により、心配していた新中山池の貯水量が一挙に回復したと、豊島地区の貯水量も90%近くに回復したため、協議の結果、解散することにしましたとの報告でした。

視察研修

6月4・5日に常任委員会合同で佐賀県佐賀市と長崎県壱岐市へ視察研修にまいりました。

佐賀県では、「損保ジャパン・コールセンター」を視察しました。

次に壱岐市に渡り、壱岐市観光工商課による企業誘致への取り組み状況について説明を受けその後、昨年4月に誘致した「レオパレス21・壱岐コールセンター」を視察しました。



レオパレス壱岐コールセンター
(旧旅館の跡地を利用したコールセンター)
写真は旧旅館の大広間での作業風景

教育民生委員会

現地視察

5月13日、土庄幼稚園と洲崎幼稚園の現地視察をしました。

土庄幼稚園の土地は借地であり、建物については、

昭和50年に建設されております。

また、戸形地区の園児は、土庄小学校のスクールバスを利用して通園しており、園児数は、3歳児から5歳児までの74人が通園しているとのこと

です。
平成18年度から預かり保育を、給食については



土庄幼稚園・運動会の練習風景

この件については、教育委員会内部で十分協議してほしいと、お願いしました。

教育総務課

土庄中学校校舎改築工事の進捗状況について説明がありました。

予定どおり3月末で浄化槽設置工事を完了し、4月より杭打ち工事にかかり、134本を4月28日に設置完了したとのことです。

次に、刈崎幼稚園の園児数については、3歳児から5歳児までの52人が通園しており、昨年度より約20人程少なくなっていました。

また、建物については、昭和45年に建設されており、預かり保育と給食についても土庄幼稚園と同様に実施しているとの説明でした。

両園長から視察時に、「預かり保育等の導入により、職員の研修時間が取れなくなってきたので、研修時間が取れるよう検討してほしい。」と、要望がありました。

追加の工事費が、約100万円程度必要となりますが、これについては、9月補正でお願いしたいとのことでした。

委員より、2月中旬を目標として、できるだけ早く完成させてほしいとの意見がありました。また、小学校と幼稚園も含めた再編と施設の耐震化について、どうするのか、十分検討してほしいという意見があり、執行部より教育委員会の場で議論して、ある程度意見をまとめてから、この委員会にお諮りしたいとのことでした。

中央病院

中央病院からは、運営状況について説明がありました。

平成19年度の患者数ですが、入院患者数は43,072人で昨年度より338人の増、1日あたり118人になっていきます。外来患者数は、100,568人で昨年度より2,224人の増になっており、1日あたり約410人の患者数になります。

緊急医療体制ですが、島外へ搬送された件数は65件で、交通手段の内訳は、フェリーの利用が57件、海上タクシーが6件、ヘリコプターが2件でした。主な搬送先は、県立中央病院と高松赤十字病院でした。

委員より、内科の午後診察は、ぜひ復活させてほしい。内科の昼からの患者さんは多いと思うので、医師不足の解決に

前向きに取り組んで下さいとの意見がありました。

健康増進課

健康増進課からは、妊婦健康診査の現状について説明がありました。

妊娠中の母子それぞれの健康を守るため、定期的に健診を受けることができます。その内の4回については、妊婦健康診査受診票を使用することで、健診が無料で受けられます。

また、出産予定日において、35歳以上の方は妊娠末期において妊婦超音波検査を1回無料で受診できるとの説明がありました。

委員より、子どもを出産するまでに、何回ぐらい受診するのか。公費でいくらかかるのか、平均的な受診料の額を調査してくださいとの意見と、無料の受診券を今後、4枚から5枚等に増やす考えはあるのかという質問があり、執行部より少子化対策全体の中で、どれが良い策か検討していきたいとの説明でした。

視察研修

6月4・5日に佐賀県佐賀市と長崎県杵岐市へ視察研修にまいりました。

佐賀県では、「損保ジャパン・コールセンター」を視察しました。

次に杵岐市に渡り、杵岐市の概要について説明を受けた後、杵岐市民病院の管理部長による病院運営状況の説明と医師・看護師の確保や緊急医療体制の取り組み状況について説明を受けその後、平成17年3月に完成した「杵岐市立市民病院」を視察しました。



杵岐市民病院

する質問

一般質問事項

川本貴也 議員
3月議会での質問に対する進捗状況

Q エンジェルロードのPR方法について。

A 6月12日から6月23日までの間、エンジェルロードを訪れた人に、指定した看板場所撮影した画像データをメール送信してもらい、その画像を2L版にプリントし、思い出の記念写真としてプレゼント致しました。また阪神競馬場で7月12日と13日に「小豆島特別競走」が実施されます。特別競走は、スポーツ紙だけでなく、一般紙にも掲載され、多くの方の目に「小豆島」の名前がアピールできるものと考えています。

Q エンジェルロードの周辺整備について。

A 整備計画における周辺環境整備については、4月18日付けで土庄中央漁業協同組合にお願いをし、その後、4月22日の土庄中央漁協役員会には、農林水産課、商工観光課及びとのしよ観光協会の会長が、再度、お願いに参りました。今後も引き続き組合長をはじめ支所長など、漁業関係者との協議をお願いして参りたいと思います。

川口幸路 議員
耕作放棄地等について
のわが町のビジョンは

Q ①耕作放棄地や遊休農地をどのような形で活用して行くか。
②観光立町らしいまちづくりと食料需要を含めたまちづくりについて。

A 現在の土庄町の耕作面積は昭和60年当時の約半分で、荒廃が進んでいるのが現状です。加えて昨年の伊喜末地区の農家の意識調査によると、農地の荒廃はやむを得ないと考えている人が6割以上あり、自ら農地を耕作することに限界を感じている人が多いという結果が出ています。そこで遊休地に対する町の農業施策の一環として、遊休農地にうどんの原料である「さめぎの夢2000」・「さつま芋」・「オリーブ」などの栽培により、農業振興と特産物の推進を図っていくことも一つの方策であると考えます。その栽培された「さつま芋」については、小豆島ブランドの焼酎製造の原料とし、葉と茎は佃煮として、小豆島特産品として販売することも考えられます。また、オリーブについては、従来の食用油や化粧品のほか、いろいろな付加価値をつけた新たな特産化を開発し、栽培の拡大を図っていく施策も重要であると思います。

今後、県農業改良普及センター・農業委員会・JA香川県などとの連携を図りながら、宮農組織や担い手の育成に重点を置き、遊休農地を活用した特産物を開発するなど、観光の町として美しい環境との調和がとれたまちづくりを推進して参りたいと思います。

山本良熙 議員
町が所有する絵画、書、写真等の住民への公開展示

Q 町が所有している絵画、書、写真等の美術品には文化価値が高いものが数多くあります。これらの作品の中にはロビー等に掲げられている作品以外は、限られた一部の人のみしか見ることが出来ません。これらを住民に公開する機会をつくってはどうか。

A 町が所有する美術品等については、大部分は寄贈によるもので、備品台帳について、かなり担当課で

は整備されているものの本庁関係の一部以外は完全には整備されていないため、誰がいつごろ寄贈して下さったか。また現在何がどこにあるかというようなことが把握できていないのが実情です。町としても、所有する価値ある財産を有効利用することは、非常に重要なことであり、住民の方々に様々な美術品等を紹介する機会を増やすことは、美術品等を寄贈された方々の本位でもあるように考えます。現段階では現状をまず把握することから考えるという状況でありますので、その体制が整い、十分管理できる状態が確保できた時点で展示等の貸出しが可能かどうかを判断していきたいと思います。



町政に対

6月定例会

泊 満夫 議員

2009年度の「消費者庁」設置に伴う市町村の対応

Q

「消費生活センター」の設置

や相談員体制の配置などの強化支援策への対応は。

A

国においても関連法案などについては、次の臨時国会以降に提出する予定で、現時点においては詳細な内容については把握できていないのが現状であります。いずれにしても、今後、国又は県等から関連情報が周知された時点で、最終的な判断をしていきたいと考えております。

公共施設の耐震補強

Q

地震等自然災害に関して、小

学校・公民館の耐震補強の今後の計画は。

A

現在のところ、小学校の体育館については、土庄・洲崎・四海・北浦小学校は耐震化が来ており、豊島小学校・土庄中学校については、平成21年度に耐震補強を計画しております。小学校校舎については、北浦小学校を除く各小学校においては、補強工事が必要であります。2月に再編協議会から「新築1校が望ましい」との答申書が出され、現校舎の耐震計画を進めにくい状況にあります。まず、早急に統廃合の計画を確定し、その後、改築及び耐震工事を計画していく予定です。旧耐震基準による社会教育施設の建て替え又は、新基準による耐震化については、現在のところ計画は持っておりません。また、その他の公共施設においては、財政の厳しい中、目に見えない安心のための投資というのは、なかなか経費投入が難しく、目に見える生活環境への投入に重点が置かれがちに

なりますが、今後はそういった部分への検討、また年次計画等も視野に入れたら考えていきたいと思えます。

三枝邦彦 議員

地産地消の推進を

Q

全小・中学校の地元食材の利用状況と、今後の方向性についてお尋ねします。

A

給食センターにおいては、地

元食材の利用、地域の農林水産物を利用した献立を常に考え、地産地消に取り組んでおります。

農産物は、コマツナ、たまねぎ、ジャガイモ等約40種類、水産物は、ハリイカ、タコ、スズキ等10種類、果物は、イチゴ、ミカン等10種類を地元で調達しております。これは品目において全体の約30%に当たります。現在のところ高齢化等により生産量も限られており、

一気に利用度を増加させるには困難なところもありますが、地域の協力を得ながら、少しでも学校給食に地場産品の使用が増えるように取り組んでいきたいと考えております。

仮称「石博覧会・石サミット」の開催を

Q

小豆島町との打ち合わせ状況と、2009年開催場所、小海の残石公園かどうか。

A

石の博覧会又は石のサミット

は、土庄町、小豆島町の合同でやろうということに合意しております。しかし、経済効果とか町民の理解を得るようなテーマを先ず考えていかないとけない上、時期的な問題も考慮しなければいけません。

そういったことから石のサミットは、小海の残石記念公園を主会場とすることは決定しており

ますが、もう少し時間が必要であると思っております。出来れば来年、出来なければ2010年というふうなことも考えておりますので、ご理解を賜りたいと思えます。



大坂城残石記念公園

交通問題対策特別委員会

本委員会は、今年3月定例会において設置されてから、初めての委員会として5月9日に、閉会中の交通問題対策特別委員会を開催いたしましたので、その概要について、ご報告いたします。

当日は、「地域公共交通の現状と課題について」をテーマとし、陸上交通を中心とした研修会を開催する運びになりました。

委員をはじめ町職員も含め28名が出席した中、国土交通省四国運輸局の職員4名の皆様に、それぞれの専門分野でご講演をしていただきました。

まず、道路運送法の一部改正については、地域公共交通会議での合意により、運賃及び料金の設定や変更が可能になったこと、事業者によることが困難な場合は、NPO等による運送も可能になったという説明でした。

次に、「小豆島のバスの現状及び問題点について」は、小豆島のバス交



通活性化委員会を設立し、アンケート調査を実施し、その結果から、小豆島のバス交通の活性化プログラムの施策の選定をしたとの説明でした。

最後に、「地域公共交通活性化・再生総合事業について」は、地域の法定協議会に対し、一括支援する事業で、内容はバ

スの購入や待合所の整備等もでき、事業費の1/2補助で上限は2,000万円、最大で3年間の事業ができるとの説明でした。

委員より、まず一点目、小豆島の路線バスは、今、危機的な状況であり、NPO等の進出や乗合タクシーが普及すると、路線バスがなくなるのではないかと意見があり、講師より、あくまで路線バスが基本となっており、その他は交通空白地帯を埋めるためのもので、補助的なものです。路線バスを脅かしていくというものではありません。

委員より、小豆島のバス交通活性化委員会は、

運輸局が主で立ち上げたのか、経過を聞きたいとの質問があり、講師より、活性化委員会は運輸局が主体となり、平成19年度の単年度で調査のみを行いました。今後、委員会を立ち上げる場合は、基本的に市町村に音頭をとってもらいたい。内容によつては、小豆島バスの活性化を課題にしてもいいという説明がありました。

以上、調査経過の概要について申し上げましたが、「交通問題対策について」は、公共交通空白地帯の困った人の立場で、公共交通を考えていく必要がありますので、今後とも引き続き調査したいと考えております。

映画ロケのご紹介

来春公開映画

「僕とママの黄色い自転車」

7月12日から19日にかけて、題名「ぼくとママの黄色い自転車」のロケが銚子溪「愛の泉」・オリーブ公園・北浦郵便局・エンジェルロード・老人ホーム「あづき」などで行われました。

親子の愛と信頼を描く、感動に満ちたストーリーだ。小学三年生の少年が一人写真をたよりに小豆島に暮らす母に会いにくる。そこには過酷な現実が…。そして奇跡は！

上映は来春の予定です。ぜひ親子づれで見て欲しい映画です。



銚子溪「愛の泉」前にて

編集後記

猛暑の日々が続いておりますが、皆様におかれましてはお元気で過ごさしのことと思います。

地球温暖化の影響が今年の梅雨明けも昨年より十九日、平年より十三日も早く明けました。

心配なのは七月の原油再値上げや、農産物・乳製品の原材料価格の高騰による各産業の低迷と、後を絶たない消費期限・産地偽装

など生活者としては生活防衛の知恵と工夫が要求される時代となりました。

表紙の写真は去る四月二十六日、豊島「お大師まいり」の心温まるおせったい風景です。何日も前から地域共同で準備をしていただき当日も一生懸命お心使いをいただき、ただただ感謝の念で一杯でございます。本当にありがとうございます。



**町議会は
いつでも傍聴
することができます。
もっともっと身近に
接してみませんか！**

町議会の本会議は公開されています。皆さんが選んだ議員がどのような会議を行い、町政がどのように進められているかなど、町議会の実際を知りたい方は、いつでも傍聴することができます。

詳しくは議会事務局へお尋ねください。(62-7011)

次の町議会は、9月24日から予定しています。